

第3回 豊岡市社会教育推進委員会 会議録

- 1 日 時 2026 年 5 月 25 日（金）午前 10 時開会 12 時閉会
- 2 場 所 豊岡市役所 本庁舎 3 階庁議室
- 3 出席者 委員 10 名
清國祐二委員長、太田博章副委員長、赤松明生委員、山下恭子委員、
細川仙一委員、小松和巳委員、佐藤春華委員、由留佐泰子委員、貝口志保委員、
加芝真理子委員
教育長、教育次長、教育総務課課長、教育総務課課長補佐、教育総務課社会教育
係長
関係課
地域づくり課、多様性推進・ジェンダーギャップ対策課、文化・スポーツ振興
課、社会福祉課、学校教育課、教育総務課図書館
- 4 議 事 (1) 2025 年度の振返り
・意見交換
(2) 協議事項
ア 社会教育基本計画に係る取組内容について
・意見交換
イ 社会教育関係団体に対する補助金交付について
・意見交換

会議録（要点記録）

注）この会議録は、発言内容を一元一句正確に記録したものではありません。発言内容をもとに一部表現（文言）を変えて表記している箇所があります。

1 開会	
2 あいさつ（清國委員長、能登教育長）	
3 議事 (1) 2025 年度の振り返り	
委員長	最初に、2025 年度の振り返りをするというところですが、昨年度初めてこの委員会が開催されました。委員の皆様方も戸惑いながら参加されたと思います。行政では、子ども関係の事業など複数の課で担っておられるところもございますので、情報共有等されている部分もあり、行政の職員の方は、ある程度経験を踏まえて参加をされたのかなということも思っております。1 年間の取組を通じて、相互に意見交換も振り返りもできたらと思ひまして、資料 1 になりますが、私の方で、昨年度感じたことを書かせていただいたところです。これを素材にしながら、少し皆様方からもご意見がいただければと考えております。 まず資料 1 を簡単に確認してみたいと思います。事前に配られた資料の中に昨年の評価シートもございますが、昨年は各課から自己評価をいただいて、その自己評価について、妥当性みたいなものを委員の皆様にご協議をいただきました。手続きとしては、自己評価を担当課の方にいただいて、それを委員の皆様にごチェックしていただくとともに、それが妥当であるかどうかについて話をさせていただきました。資料を十分見る時間が取れなかったということもいただいておりますので、それは今後、改善をしていただけたらと考えております。 先ほども教育長からありましたが、2 の全体像については、「自分づくり、生きがいくくり、つながりづくり、まちづくり」、このようなコンセプトを掲げました。学習なので自分から始まるんだけど、「生きがいくくり」につながる。107 歳まで 50% 生きるって、本当にそれが実現したらすごいと思いますが、「生きがいくくり」というところにつながっていったって、豊かなものを生み出していったって「まちづくり」につながるというような、そういう流れを構想しました。それが一方で、この「つながりづくり、まちづくり」のところの実態はどうかというと、やはりかなり現実には厳しいところがあるので、どうやったら、この「つながりづくり」とか「まちづくり」が、この計画を推進しながら実現していくのかというのは、考えていかなきゃいけないということは思っているところです。特に、個人の生活、個人が学びの中心ではあるんですが、個人で完結することはほぼないので、私たちは社会の中でつながり合って、持ちつ持たれつ協力し合いながら、より良いものを生み出していくということをこれまでもやってきましたし、これからもそれは不可欠なんだと、それができなければ社会って残念ながら力としては弱くなっていくのではないだろうかと思像されるところです。そのために、行政としては本当にいろんな努力をされている。こういう委員会を作りながら、「図書館未来プラン」を策定したり、「スポーツ推進計画」を策定したり、あらゆる分野から漏れ落ちるものがないように計画を作りながら、それを責任を持って進めていくということをなさっているわけです。ただ、行政もマンパワーとしては、合併以降、プラスされたものからどんどん削減されていくわけですし、これまでの行政というのが広がりがあるので、どうしても行き届かないと言うとあまりよくないのかもしれませんが、そういうことが起こってしまう。これは協働のまちづくりにしていかなければ、行政のみに頼ってそれが実現するという世の中、時代ではなくなってきたというのは、市民側も自覚をしていると思います。ただ、公のために力を発揮する人と、いやいや、私はサービスは受けるけど、自らが皆さんのためにはやらないよと

	いう人も、実態が増えてきているところがあるわけですし、その辺りをどうしていくのかということは、本当に難しい話だというようなところが2番目の方です。 3番目の成果と課題というところですが、まがりなりにも生涯学習に関わる、社会教育に関わる行政の取組が、同じシートに記載をされて、同じ基準で実施の現在地を確認するということはできたわけですので、そういう意味では大きな一歩であったんだろうと思います。これは行政の職員の方々の中でも、関連する計画がしっかりと進んでいるのか、どこに苦戦、苦勞されているのか、はたまた、なかなか厳しいなということ、そういうことも見えてこられたんじゃないかと思います。委員の皆様方も、皆様方が見える範囲のところでご意見をたくさんちょうだいしたと思っております。そういう意味で、民間としてチェックやらアドバイスやら、そういうものができたのではないかということが成果として考えられます。 今後ですが、さらにいいものにするために、これは特に私がどうこうということではないんですが、1年間を振り返ってみられて、より良くするために、この推進委員会の役割や機能は、もっとこういうところを踏み込んでやれたらよりよくなるなとか、行政の方々もひょっとしたら、委員の皆様には何かお願いしたいことがあるかもしれませんし、行政機関でも新たに、特に足りないとか、苦戦しているとか、それはすごく大きな、何か前向きに捉えればすごく大事なことだと思うんです。足りないから助けようとなりますし、うまくいってないから知恵を出し合おうということになると思います。できていればほっとけばいい話なので、そのできていないというところが、つながる可能性を大いに秘めているということで考えると、知恵を出し合う意義もあろうかと思います。委員の皆様から、行政がこれを推進していくうえで、元気が出るようなアドバイスやご意見をいただけるととてもありがたいな、そして、「つながりづくり」と「まちづくり」が少しでも豊かになっていけばいいなというようなことを考えながら、委員会をさせていただき、2月の会議の後に考えをまとめてみたところですよ。 ということで、何について話をしてくださいということではないんですけど、1年間を振り返って、この社会基本計画、社会教育推進委員会、こういうものがどうあればいいというようなことを、もう感じたままに結構ですので、お話いただければと思いますが、いかがでしょうか。
委員	スポーツ協会の会長をしています。実は中学校の部活動の地域展開ということで、先月、兵庫県の会長会で神戸の方に行ってきました。そこで、兵庫県の教育委員会の方から部活動の話を聞かせていただきまして、また資料もいただきました。豊岡、まあ但馬ですけども、豊岡の方は少し遅れている。今の少年野球の保護者、5年生6年生の保護者、そして、私は野球が専門で野球の教室を持ったり、野球の指導をしたりしているんですが、子どもたちの親が、「どうなっていますか。もう、部活がなくなるんですか。」とか、いろんな危機感を持ちながら、どうしてほしい、こうしてほしいと言って、私のところに来ます。しかし、私のところに豊岡市の教育委員会の方から、こうしてくださいというようなことは全くない。そして、私も5年ほど前に学校の方に相談しましたが、まだ全然そういう話も聞いていませんということでもう全く話になりません。うちのスポーツ協会の事務局じゃなく理事長をしている方が、部活動の検討委員会の委員長をしまして、いろいろと話を聞きますが、いまいち前に進まない。それでもうイライラするんです。学校の方に1回相談しに行きたいと思ったりしますが、学校の先生、指導している先生も、聞いていませんというようなことを聞くので、これじゃあ前に進まないだろうという感じを受けております。京阪神の方は、今年、来年度中には完全に移行するということが資料にも書いてあります。豊岡市は受け皿がないので、その受け皿をどうするかということになると、やはり豊岡市スポーツ協会にお願いする、もしくは、豊岡に

	はスポーツクラブ 21 というのが個々にあるんですが、そこに依頼する。そういうことで早く手を打たないといけない。都市部はどんどん進んでいく。私は 5 年前にそういう話を学校の方にしましたが、だんだんもうええかという気持ちになってしまう。そういうことにならないように。そして 107 歳まで生きるといって、そしたら健康寿命っていつまであるか。今現在、健康寿命というのは 71 歳です。健康でいられるように、今、健康ブーム、スポーツブームで年寄りの方も歩いたり、グランドゴルフしたり、いろんなことをしています。一番大事な中学校の時期に、それをちゃんとしてやらないと、私たちのスポーツ協会の各協会がなくなっていく。そうすると、107 歳ではなく、寿命は男子で 82 歳、女子で 86 歳でしたか。それと同じようになると思います。だから 107 歳まで生きようと思ったら、やはり体づくり、健康づくりをしていかないといけないと思うので、何とか学校側にも、はっきりこうしてほしいということを教育委員会の方から言ってほしいと思います。
委員長	部活動の地域移行というところから見てくる問題のところについて、ご指摘をいただきました。
委員	また教育委員会とスポーツ協会と話し合いをして、できたらもう前向きにどんどん進めていかないと、5 年も待っているような状態では話にならない。子どもたちがかわいそうなので、よろしくお願いします。
委員長	またそれは教育委員会の方で受けとめていただいて。 その他のことで何か。せっきく関係の課からもお見えですので、委員会の中から見えたところなどございましたら。
委員	1 年経って今回 3 回目なんですが、先生のこの資料 1 をいただいて、じっくり読んで、私なりに振り返ってみました。去年、この評価シートに基づいて、いろいろと議論をしたわけですが、先生の資料の中では、社会教育基本計画の取組の営みの区分が二つに分かれているということが書かれている。一つが「個人の学び、活動推進」の項目、もう一つが「新しい時代に関する学びや活動を通して相互理解や助け合いを基軸としたまちづくり」の項目ということで、中の計画が 11 項目あるんですけど、六つと五つに分かれていました。個人に関する項目の方が、「第 2 期スポーツ推進計画」、「第 2 期文化推進計画」、「第 5 次とよおか教育プラン」、「子ども会活動」、「生涯活動の推進」、「図書館未来プラン」。相互理解助け合いに関する項目が、「地域コミュニティビジョン」、「男女共同参画プラン」、「人権教育啓発事業」、「多文化共生推進プラン」、「障害者福祉計画」。大きく二つに分かれると資料 1 に書かれていました。資料 2 の評価シートもすごくわかりやすく集約していただいて、見やすいものになっていると思っています。はっきり書かれることで、関連計画の内容や方向性が明確化してきたんじゃないかと感じました。先ほども言われましたように、豊岡市の「自分づくり、生きがいくくり、つながりづくり、まちづくり」という四つのコンセプトがあるんですが、やはりその「つながりづくり、まちづくり」が難しいとおっしゃるというのが、相互理解、助け合いの区分の五つの項目じゃないかと感じました。相互理解、助け合いの方に関しては、専門的な分野が多くて私自身も内容がわからない部分が多いので、個人的に検討するレベルに至っていないなと思いました。ただ逆に個人の学びの方に関しては、やはり市民の目線というか、そういうことで意見は言えるので、今集まってらっしゃる委員の方々が、それぞれの団体の得意とするところというか、方向性があるところで、分科会を作られてもいいんじゃないかと思いました。
委員長	確におっしゃるとおりで、特に専門性を伴うところというのは、なかなか見ただけで意見が述べられるか難しいところもございますので、推進委員会の持ち方として、グループに分かれて話をするというようなことも、確かにあってもいいような気がいたしました。本当に職員の方も入っていただいて、質問をしたり、あるいは思いを述べたりというようなこともあってもいいですね。

	貴重なご意見ありがとうございました。持ち方のところをお話いただきました。
委員	私もお話伺っていて、評価シートが本当に多岐にわたっていたりして、一市民の立場からすると、理解をすることに追いつくのが結構大変だなというのがあります。もちろんこちらでも努力して、情報を整理したり、理解していかないといけないんですけども、時間的にも関われるところも限られるので、時間を有効に活用するとしたら、この人はここの担当とか、もう少し範囲を狭められると、考えをまとめやすかったりするのかなと思っています。
委員長	そういう意味では、少し、担当分野というか、例えば〇〇委員さんは、この計画を中心にしっかりと見ていただいて、話を伺ったりするような機会を設けて、最後にご意見をいただくとかいうようなことがあってもよさそうな感じがします。先の委員さんの発言を受けて、さらに発展するような形でおっしゃっていただけたと思います。 ここでは何かを決めないといけないということではないですので、1年を振り返って、もう少しこうやったほうがよかったかなというようなことで皆さん方からご意見をいただいて、それが会の進行に反映されるということです。継続して思いついたときにご意見をちょうだいできていいかなと思います。今日、何か結論をということではございませんので、ひとまず、問題意識、課題意識を持っておいていただいて、こういった問題があるというときには、またご意見をちょうだいできればと思います。 担当課の方から何かこの委員会の中で、こんな意見が出るとありがたいというようなことがあったりするんでしょうか。ご要望等があれば。先ほど、専門的な分野については、また一緒に話をするような、グループで協議ができるようなものになったらいいなということがございました。それによって理解が進むだろうと思うんですけども、それ以外に、この委員会の運営に関わって何かこんなことがというようなことがあれば、お話いただければと思います。
地域づくり課	地域づくり課では「地域コミュニティビジョン」というのがありまして、コミュニティ活動の推進みたいなことを進めようとしています。その中でやはり、運動会であったり、文化祭であったり、地域行事みたいなものについて、地域ごとに違うんですけど、若い世代、事務局というのは、そういうものを減らしていきたいというのがあったりします。でも、どうしてもその社会教育だったり、生涯学習だったり活動の中でも基本となることなので、地域に揺らぎを起こしたりするものとして、とても大事なものだと思っています。そういったときに、世間的にはこういう意見がある、ああいう意見があるみたいな、提案みたいなものをいただけると、地域に対して、こういう話がある、こういう話が出ていたみたいなことを伝えられて、次の展開につなげられたりしやすいのかなと思っています。そういったご助言をいただけるとありがたいです。
委員長	地域の実態等を踏まえながら、提案みたいなものですね。それによって展開をしていただけるとことのようなので、ご要望等については、取り組みやすいようなご要望をいただけるといいのかなと思います。
多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	多様性推進・ジェンダーギャップ対策課では、去年、「ジェンダーギャップ対策戦略」と「多文化共生推進プラン」の改訂がありました。検討委員会を何回かやりまして、分科会、ワークショップもして、たくさんの委員の方から意見をいただいてこの計画を作ったという経緯があります。そうして作ってきた計画と、こっちの委員会でも分科会をして意見をいただくというと、意見の反映のさせ方というか、流れがどうなるんだろうという疑問があります。
委員長	どうしたらいいですか。あまり複数のものを持たない方がいいのか。この委員会で取り組むのであれば、全く同じことやっても意味がありませんよね。ですから、こういう形だったら確かにとか、ありがたいとかいうようなことが少しでもあれば。
多様性推進・ジ	策定した計画に対して、5年間の計画だったら5年間、毎年毎年見直しや進

エンダーギャップ対策課	捗状況の確認があるので、それに対してご意見いただくというようなことだったらありがたいと思います。
委員長	そのものというよりは、その都度、結果に対してということですね。おそらくそのようなことかなと、先ほど出た意見もそうかなと思いました。 ひとまずはこのようなところで、担当課の方からも、そういうご意見が何らかの形で持ちの部分があるということが見えただけでも、すごくよかったかなと思います。またそういうことを伺いながら、会がよりよいものというか、足を引っ張るものなんかには少なくともなっちゃいけないので、そうじゃないものになればということは思うところです。それでは、委員会については、今年度より良くするためのものですので、また継続してご意見を賜ればと思います。 それでは2番目の協議事項「社会教育基本計画にかかる取組内容について」に入ります。資料2の今年の評価シートをご覧ください、今年度実施される社会教育基本計画に関係する取組がどのような内容となっているかをざっと確認する時間とさせていただきたいと思います。先ほどもご意見がありましたが、取組については、基本的には計画に則って各課でこういう取組をとということでございますので、ひとまず、そのことの是非ではなくて、これらを、全体を見渡しながら、何か関連づくような計画であったり、こういう視点をさらに持っていただくといいなというようなところでご意見をいただくことになるのかなと思っております。そのようなことで、全体を俯瞰するような感じでご覧いただければと思います。それでは、各所管課から資料2につきまして、今年度はそれぞれ計画ごとに並べていただいておりますので、説明をいただきたいと思っております。
(2) 協議事項 ア 社会教育基本計画にかかる取組内容について	
地域づくり課	資料2 取組内容 No.1～5説明 ※「地域コミュニティビジョン」
委員長	夏休みの宿題、課題なんですけど、そこでみんながやり合っているところがあるのかなというところで、これは、難しい側面の「つながりづくり」とか「まちづくり」に対応していくようなことでも捉えられると思いました。そんなことがたくさんあると思いますので、また皆さん、説明を受けて、後ほどご意見をいただければと思います。
多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	資料2 取組内容 No.6説明 ※「男女共同参画プラン」 No.7説明 ※「人権教育・啓発事業」 No.8説明 ※「多文化共生推進プラン」
委員長	大体こういう啓発的な活動が行政の場合に多いと思います。冊子を作ったり、学習機会を提供したりということになると、大概困りごととして、集まらない、研修会をしても必要な人が寄ってくれないみたいなことはあると思います。その辺もお知恵をいただければと思いました。
文化・スポーツ振興課	資料2 取組内容 No.9～10説明 ※「第2期スポーツ推進計画」 No.11説明 ※「第2期文化芸術振興計画」
委員長	サイトとかは日進月歩ですから、それをいち早く捉えて、住民のアクセスがしやすいというところで工夫をされている。先ほど委員がおっしゃった、学校との連携みたいなことはまた別のところでの話ですか。部活動の地域移行とかいうのは、学校教育の中で協議されることで、学校の方が主で考えて、方針等は取りまとめたというようなことですか。あまりこことつながっているということはないですか。
文化・スポーツ振興課	そうですね。庁内は連携会議を今年から設置しておりますので、また情報を密にしながら進めて参りたいと思っております。
委員長	また、委員の先ほどのご意見等ございましたので、ぜひ、行政でも受けとめ

	ていただければと思います。
社会福祉課	資料2 取組内容 No.12～13 説明 ※「障害者福祉計画」
学校教育課	資料2 取組内容 No.14 説明 ※「第5次とよおか教育プラン」
教育総務課	資料2 取組内容 No.15～16 説明 ※「第5次とよおか教育プラン」 No.17 説明 ※子ども会活動 No.18～19 説明 ※生涯学習の推進
図書館	資料2 取組内容 No.20～26 説明 ※「図書館未来プラン」
委員長	すべての関係する計画、プラン等から、今年度の取組についてご報告をいただきました。委員の皆様方、これらを俯瞰しながら、考えたことをご意見いただければと思います。
委員	図書館のことです。いろんなところから、北但大震災の展示があるとか、そういうお話を聞いたんですが、合併してから豊岡市はものすごく広くて、旧豊岡市の方で、いろいろいいと思う事業があっても、なかなか端っこにいと、そういうのを見る機会が少ないです。もしできれば、期間が短くてもいいので、今回は但東でします、今回は出石でします、日高でしますというふうにいただけると、見に行ける人が増えるのではないかと思います。実際私も実は、目の方の身体障害者で自分では車が運転できないんです。そしたら、出石は多分近いように思われますけども、ものすごく足が遠のいてしまって、もう豊岡に年に何回来るかみたいなことになります。例えば、出石から日高行き、豊岡行きもバスが少ないので、できたら期間短くてもいいので、いい催しは、各地区でも実施していただくとすごく嬉しいなと思います。
委員長	そういうのも検討いただけますか。
図書館	はい。例えば、自殺予防とかそういったミニコーナー的なのは、各館全館でできるんですけども、写真展とかになると本館が中心ということが正直あります。ただ、分館には、例えばコミュニティセンターがあったりします。分館の中でスペースが難しいということであれば、庁舎内の他のところで実施させていただくということもできるかと思います。それこそ、コミュニティもある中で、何かできないかなというところは声をかけさせていただきたいと思います。
委員	読書会のことですが、去年、新規で図書館は読書会を挙げられて、ほとんど継続の取組の中で、やはり新規はなかなか勇気があることだから、すごいなと思っていました。それが今年度も続けられるということでもいいなと思ってます。読書会がまず本館をベースにして、本館で3回されていますが、それを先ほど言われたように、1回目は豊岡だけど、2回目を出石ですとか、3回目をどこどこにするというのでしたら、他の分館に行く機会にもなります。読書週間のときにスタンプラリーを実際されているので、その期間に1回この読書会を設けて、ここに行くきっかけにしましょうというのでされたら、よその分館に行くきっかけにもなると思います。また、大人でも絵本の好きな人はやはりいっぱいいるし、親子で絵本を読んでほしいという気持ちもちろんです。テーマをいろいろ書いておられるんですが、その中で1回絵本を好きな人みたいなテーマを設けてもらったらと思います。それと、読書タイムプレゼントされていますよね。シルバー人材センターの人が保育をして、1時間ほどお母さんは自由に本を読んでくださいという時間のプレゼントを各館でされている。それを大きな分館、日高とか、出石とか、そこに読書会をくっつけて、その1時間はシルバー人材センターの人が保育をする。お母さんは読書会に参加して、リフレッシュして、1時間後に子どもをまた迎えに行くみたいなことができれば、親子関連の取組としてはいいかなと思っています。今ちょうどいろんな館に行ったらどうですかと言われたので、それに合わせて話をしてみました。 今度は電子書籍の話です。電子書籍がすごく高いというのを聞いているので、たくさん買ってくれとは言いにいくんですが、児童書がとてまたたくさんあって、

	一般書は3分の1ぐらいしかないんです。先日初めて電子書籍を見ていて、すごく便利なものだというのがわかりました。単行本だと予約数が十何件入っているのも、たまたま同じ本が電子書籍であって、まだ電子書籍の知名度がないので、すぐ借りられました。返しに行ったり、借りに行ったりする手間がないので、これから高齢化になって図書館が遠くなっても、読みたい本が電子書籍にあれば、自由に借りて、期限が来たら勝手に返っていきます。豊岡市もどんどん高齢化していったら、車の免許返戻なんてことになると思うと、交通機関も少ないですし、図書館に行くのが難しくなるなと思ったときに、電子書籍を借りたらいいい。でもやはり数が限られているので、児童書もちろん大事ですけど、学校には図書室もあるし、少し一般書の方にまわしていただけたらありがたいと思いました。 最後になりますが、今回は新規の事業が一つ大きく入ってしまっていて、それはすごく注目していたんですけども、例えば、どういったことが講座にあがってくるのかなとか、どういういった人たちが登録されるのかなとか思ったりしています。5人以上の団体で利用と書いてありました。実は去年、登録グループのお母さんたちで、出前講座で教育プランの話をみんなで聞いたんです。出前講座を初めて利用したんですけど、いい取組だなと思いました。今回、こうやって「よりみち学校」ができて、例えば、子育てセンターの教育、親子、人数少ないんですけど、そういう人たちが利用するときに、どんな講座があるか内容がわかれば、今後これが進んでいくうえで、私もその年間の計画に入れることができるなと思って、この新規事業をもう少し詳しく教えてほしいなと思います。
教育総務課	まだこれから講師の募集というところなので、どんな方に集まっていたのかは、まだ不明なんですけれども、趣味的なものから、市民の方が持っておられる特技とか、何か経験したことを皆さんに伝えたいとかそういったものを一緒に学ぶ、みんなで共有しようみたいな講座になればと思っています。
委員	具体的にはどういう手順で募集されますか。
教育総務課	フォームで申し込みしていただきます。
委員	L I N EかSNSかなんかでちらっと見たんですけど、具体的にどんな感じで申し込みするとかそういうのが見えなくて。講師の募集っていう、特技がある方の募集っていう、具体的な取り組み方というか。
教育総務課	ホームページであるとかインスタであるとか、そういったもので募集はかけさせていただきます。
委員	広い範囲で募集っていうのが、何に対して募集とかそんな感じじゃなくて。
教育総務課	何に対してというピンポイントで募集みたいなことではないです。
委員	全体的にどなたでも手を挙げてもらうんですね。漠然としてどんな感じかなと思ったので。
委員長	すでに要項は、ホームページ等で確認ができるという理解でいいですか。それを見れば、予算の規模とか、様式で申請をすればいいとか、いろんなことは、そこから見えるということでもいいですかね。皆さん方もご利用できるということですかね。ぜひご利用していただければと思います。図書館の方から何かございますでしょうか。
図書館	まず、読書会は、確かに今まで本館でしかできていなかったもので、ぜひ、分館でもさせていただこうと思っています。現在、日時が限られますが、本館分館にかかわらず、託児サービスを行っております。分館では、子育てセンターをお願いをして、お子さんを30分とか1時間お預かりして、その間に親御さんは、図書館で自由に過ごすというサービスを実施しております。ただ他のイベントと一緒に合わせるというのは、実際はなかったと思います。そこで読書会もするし、その日に託児サービスもするとなれば、より相乗効果も出るのかな

	と思いますので、そこはぜひ検討させていただきたいなと思います。 それから、電子図書のところは、いろんな方からたくさん買ってほしいというのは言われております。まだ、図書館向けの電子図書が少ないというところと、やはりお値段がというところもあります。なかなかあれもこれも買えないところで、我々選書担当は悩みながら、これにしよう、これはちょっとまだ紙の方でいこうとか悩んでいる状況ではあります。ただ、最近の電子図書は読み上げ機能がついているようなのもあって、音声で途中まで読んでくれるとか、続きからまた読んでくれるとかもあります。遠くだから行けないとか、なかなか図書館が開いている時間に行けないという人のサービスでもあります、紙の読書がだんだん厳しくなってきたという人もいらっしゃると思います。そういった方へのサービスにもなるのかなというところで今、電子図書の可能性を感じておりますので、コンテンツをこれからも少しずつ増やしていきたいと思っています。
委員長	電子図書というと、大分市は、全小中学校だと思うんですが、ＩＤのパスワードを付与しています。対象がどれくらいの冊数なのかはわかりませんが、ホームページを見ると、これ漫画本じゃないのみたいなものが多いですけど、それでも、無料で全員がＩＤパスワードを持って読めるような状況になっていて、予算どれぐらいかかるかなと思っています。
図書館	豊岡市も実は、小中学校のタブレット、すべてにＩＤとパスワードを付与されていて、電子図書が利用できるようになっています。電子図書も紙の本と同じように、１人が借りていたらもう読めないですけども、子ども向けの分は、たくさんの人が同時にアクセスできるというパック型で借りられるようになっています。例えば『まんが日本の歴史』とかは、１００人同時に読んでも大丈夫です。あとはもちろん物語とか絵本とかもあります。朝読用に導入したという経緯がありますので、小学生、中学生には、図書館の利用者カードを持っていないくても、電子図書をタブレットで利用できるようにさせていただいています。
委員	その性能、使い方を小中学生たちはみんな知っているんですか。
図書館	はい。学校を通して説明会とか、使い方を教えてとかいうこともあって、特に中学校には行かせていただいたりしています。
委員長	子どもには手厚いですね。
委員	生徒はやはり図書離れというのは正直あります。いろんなアンケート等見ても、スマホ、タブレットを使う、もしくは所持する数は上がっていますけれども、その中で、家で本を開いて読む時間という部分では、やはり少なくなっているという事実があります。ただ、私、今年学校を変えて、図書室とかに行くんですが、やはり本好きな子がいます。もう本当に毎日とは言いませんけども、結構図書室に来て本を読む子もいます。その中でやはり、「校長先生、新しい本を入れてください」というようなことを言う子もいますし、先ほどの図書館の電子図書を使って読むという子もいます。そういうのは先ほどおっしゃられましたけども、いろんな意味で増やしていただいて、そういう好きな子が借りられるようにというのは、非常にやっていただきたいと思います。学校の方でもその辺は、子どもたちにも知らせていきたいと思いますし、増えれば増えるほど子どもたちの使用回数も増えるのではないかと思います。
委員長	それは買取ですか。使うだけお金が取られるとか、市の負担が増えるとかですか。
図書館	基本的には１年契約とか２年契約という形にはなります。その間でしたら何回でも借りられます。
教育次長	児童、生徒が何回見たとか、実績とかはわかるんですか。
図書館	全体では出ます。学校ごととか、地域ごととか、年代ごとは難しいかと思いますが、トータルで、何月に何回ぐらいアクセスがあったということはデータとしては出ます。

委員長	そのほかで何かございますでしょうか。
委員	関連することで、青少年健全育成地区会議連絡会の方から来ているんですが、今回、「早寝早起き朝ごはん」にプラス「読書の推進」ということを目標に挙げさせていただいているんです。今、この計画を見ていただいたら、高校生の手前までの小中学生でやっているということですので、今言われたような図書館ならではの出前講座を積極的に各校、全校にPRしていただきたいです。やはり文字離れがかなり進んできておりますので、読み書きができない子どもたちがかなり増えてきているという問題もあります。子ども新聞の導入も検討いただきたいと思うんですが、学校の先生が教えるのと図書館の方が教えるのと、やはりその本の楽しさっていうのを教える機会がやはりちょっと違うと思うので、是非ともそういうPRを積極的にしていただいたらありがたいと思っていますところなんです。
委員長	他にございますか。
委員	図書館のところで、自殺予防のために、夏休みの期間にいろいろな本を置かれるということでしたが、今図書館はSNSをされていると思うので、こういう本がありますよ、ちょっとしんどい時にどうぞというような発信をSNS上でもされたらいいと思います。やはり家から出づらくなるとき、しんどくなるときに、お家で見られる媒体があるといいと思いました。あとは、やはりタイトルが真正面から「ちょっとしんどい人へ」みたいなやつだと借りづらいお子さんもいらっしゃるかなと思います。図書館の年末の福袋みたいに袋に入れて、ちょっと心が軽くなる本が入っているとか、パッケージ化すると借りやすくなるのではないかと思います。 それから、行政サービスの心の相談窓口が市の広報に出ているんですが、そのパッケージの中に入れると、いい接続になるのではないかと思います。どれぐらい効果があるかはわかりませんが。 それと、「人が集まる場所との連携」というところですが、民間のところでもいいかなというのが気になっていて、民間の場所でしたら、いろいろと可能性が広がってくるのかなと思います。 他のところで、多分化共生推進プランの8番の「外国人市民が気軽に集まれる居場所と出番の創出」ですが、何か具体的に計画があるとか、今こういうアイディアが出ているとかいったことがあるのかお聞きしたいです。
多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	2年前から多文化交流サロンというのをやっています、月に1回、前は年に限定でしたが、去年から出石とか但東とか日高とか、各地域でも開催するようになりました。日本人も外国人も誰でも来ていいですよという場所にしています。内容は、外国から来る方は地震のことをあまりご存じない方も多いので、防災関係のワークショップをしたり、調理実習をして、このごみはどうやって捨てるかという、調理実習と関連してごみの捨て方を勉強するというようなことをやっています。
委員	交流サロンのことは、何度かお聞きしたことがあります。ちょっと1回関わっていただいたこともあって、すごく楽しいことはわかったんですが、出番の創出というところだと、もう少し外国籍の方が主役になるというか、そういった場面もあるといいのかなとは思っています。私の知人で「にほんご豊岡あいいうえお」でボランティアをしている人が、そこで出会った外国籍の方と一緒に、本当に自主的な活動として、自分で場所を借りて料理のイベントをやっていました。いろんな国の、例えばフィリピン料理が食べられるとか、タイ料理が食べられるとか、そういう食べ物を作ってもらう主役としてだと、外国籍の方が真ん中になる。ご飯がきっかけになると、割といろんな方がおいしいものが食べられるということで、ハードル低く参加していて、多分10人か20人くらい結構来られます。そういう楽しそう、美味しそうとかで集まって、外国籍の方が中心になるような機会を応援できるといいのかなと思います。例えばそうい

	った多文化の交流を目的とした事業に対しては少し材料費の補助が入るといったこともあるとやりやすくなるのかなと思っています。
多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	市が主催ではやってないですが、あいうえおさんとか、国際交流協会でそういうのをされていて、さっき言われたみたいに料理を中心にとすると、幅広く子どもから大人、親子で集まれたりとか、結構いろんな方が集まっているようです。そういうのは聞いています。それから、補助の話。
委員	あわよくばと思っている。そういうものがあると、例えば、あいうえおさんとか、皆さんも忙しいと思うので、市民が外国の方と一緒に、こういう声があるからちょっとやってみようかというふうに、いろんな方が企画しやすくないかなと思って話させてもらいました。
委員長	市民協働なので、コミュニティビジョンとかと似たようなところがあるのかもしれませんが、そういった活動の支援で、本当に全体に資金があったら、もっとたくさんできるのになというようなことですね。力が地域の中にいっぱいあれば。そこに行政が直にやるというのは、それはもう無理だと思いますので、そのあたり、融通が利くような助成制度みたいなものがあったらいいですね。行政は年度の途中で始めるというのがなかなか難しいところがあります。計画を前年度にしておかなきゃいけないとかそういうところがあるので、こういった意見をいただくと、次年度に向けてまた動けるのではないかと思います。
委員	私はコミュニティの方から来させていただいてまして、城崎は新しいことをしていきたいっていろいろとたくさん考えておられます。まず、昨年から年3回の研修会ということで、市内の各区長さんとかコミュニティの委員さんとか、いろんな方、民生委員さんとかを案内しまして、城崎のことを考える、少子化を含めて今後のことを考えるということの基本とした研修会を昨年3回開催しました。その中から課題が出てきたのを今年も踏襲して、これを何か一つでも実現に向けるということを目指に、明日、今年度第1回を開催します。今年も3回開催予定です。少しずつ、計画したことを実践していきます。昨年は、研修会の中ではないんですが、各地区の区長さんの意見交換の場がもたれました。そこに参加させていただいた中で、町の中心じゃなくて、農村部の方は、もう年寄りばかりで飛躍をするのも難しいという意見がたくさんありました。その中で、ある事務局の女性が、「私、草刈機使えますよ」と言ったら、「いや、あんたはせんでいい」と言われて、すごいショックを受けたということでした。私だって教えてもらったらできるはずだということもあり、他の地区の方は、本当にする人が少ないということを知ったので、それじゃ、草刈機の講習会をしましょうということで実践されたんです。去年1回、今年もうすでに1回。そしたら結構、女性も加えてですけど参加者がありました。やはり1歩ずつそうやって計画して実行するということは、何か楽しいです。集まったらその時にちょっとしたものを作って食べてということもやっていましたので。参加してくださる方は、80名ぐらい案内して、30名ぐらいだったりしますが、少しずつ何かそういう形を作っていくって、回数を増やすことによって知名度を上げていって、参加者をもう少し増やしたいと思っています。役員なので1年で代わってしまわれる方も多いですが、そういう方にも再度再度ご案内したり、何回も出席をお願いしたりしています。城崎のコミュニティもとっても頑張っていると思います。
委員	「とよおか教育プラン」に関係することです。地域の住民が子どもたちに関わるということで、以前言いましたが、私は小学校の学校支援ボランティアに参加しています。ボランティアも図書の読み聞かせだとか登下校の見守りとかいろいろな種類がありますが、私たちがしている活動は、特に何って決めなくて割と自由な感じで、学校と協力して、今日これをしたい、あれをしたいということで許可が出たらするというふうにしています。3年前からやっていて、夏休みの時期の子どもの学習会とかは大きな事業にしたりするんですが、図

	書の方で、学校の図書室や弘道小学校のワークスペースにある本の修理だとか、カバーかけとかもしています。出前講座で来ていただいて、図書の配置や子どもたちがどうやったら読みやすいかというようなことも、図書の先生と一緒に相談にのっていただきました。カバーかけは、図書の先生に教えていただいたんですけども、修理の方です。学校図書はかなり傷みが激しいです。廃棄される本は学校の先生が決められるんですけど、じゃあこれを修理しようかというときに、どうやって修理したらいいんだろうっていう知恵がなくて、お尋ねしたら、本館の方ではボランティアがされていると聞きました。多分どの学校も、古い本の修理に困っていらっしゃるのではないかと思います。細かいことですが、そういうやり方とかも含めたところの出前講座もしていただいたら、学校のボランティアも助かるなと思いました。今年、ボランティアを募集されて、3人また追加になったので、今週、初めての顔合せがあります。そういう研修会とかを図書館の方からしていただけたら、ボランティアの活動に幅が出ると思いますので、機会があったらお願いしたいと思いました。
図書館	ぜひ行かせてもらいます。図書館では、破れた本の修理はボランティアにしています。実際に去年、五荘小学校に行かせていただきました。五荘小学校は図書ボランティアがございまして、本を直したい、ただやり方がわからないということだったので、職員を派遣して簡単な方法を伝えました。同じようなことは、どこの学校でもさせていただきます。
委員長	子どもたちにも教育的な効果が出そうな感じがします。 今年度の計画について報告をいただいたということと、委員の皆様方からご意見、提言をいただいたかなと思います。
(2) 協議事項 イ 社会教育関係団体に対する補助金交付について	
委員長	それでは、次の社会教育関係団体に対する補助金の交付について、資料3に沿って説明をいただけますでしょうか。
事務局	資料3 事務局説明
委員長	特に、委員の皆様方に何をお願いするかというのは、下線が引かれている部分です。支援、補助金等が妥当であるか、またその補助金を出すことによって、行政が民間の団体をコントロールするものではないということです。そのことについて、ご発言をいただくという機会がございます。まず趣旨の部分について何かご意見があれば、ちょうだいするとして、なければ次の補助金の支出について説明をしていただこうと思います。まず、趣旨についていかがでしょうか。これまで現状の趣旨で行われたということです。よろしゅうございますか。 続きまして資料4の方になりますが、社会教育関係団体に対する補助金ということで、関係課からご説明をいただきたいと思います。
教育総務課	資料4 説明 P T A連合会補助金 青少年健全育成地区会議連絡会補助金 子ども会連絡協議会補助金
文化・スポーツ振興課	資料4 説明 文化芸術活動振興補助金 豊岡市民会館利用者支援事業補助金 スポーツ関係団体補助金 スポーツ少年団体活動奨励金
多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	資料4 説明 人権教育啓発推進活動補助金
委員長	最後にご説明いただいたんですが、上下に書かれた令和7年度交付額と交付決定額というのは、当初の予定と実際に執行した額ということです。昨年度、実際にどれだけで組んで、どれだけ執行したかということ資料にも入れています。それも少し参考にいただければと思います。それ以外で何

	か補助金に対して、ご意見等ございますでしょうか。 私からですが、最初の計画の説明のところで、多文化共生にしても、人権にしても、P T Aとか、そういうところと連携ができたらしりいいなというお話もあったんですが、こういう補助金は、行政がコントロールするのではないというようなことをさっき言いながら、一方で情報提供として、こんな学習会が組めますよみたいなことは、情報提供されたりとかあるんでしょうか。多分研修については、それぞれP T Aの研修部の方が、学校の先生と相談をしながら計画をなさるのではないかと思います。そのときの参考資料みたいなものがあると、またそれはそれで取組がしやすかったりするのかなと思うんですが、そういうつながりみたいなものは意識的に行っておられたりというのはないと理解したらよろしいんですか。教育委員会の方とはあるんでしょうけど。
多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	事務局同士の連携というのはあります。P T Aの連合会補助金の方でもあるように、P T Aと人権が共催で講演会をするというようなことは毎年あります。
委員長	そういうのがいいなあというか、そういう連携をしながら実施するというのがお互いのメリットになるかなと思ったものですから。 何か補助金のことにつきましてよろしいですか。そういたしましたら、これについてはご承認をいただかなければなりませんので、補助金の交付額について、交付先、金額についてご承認いただけますでしょうか。
委員	前に似たようなことを言った気がするんですが、この何百何十万という情報だけだと、妥当ですという返事がしづらいなというふうに捉えていて、ただ、内訳を全部書くのもめっちゃ大変だと思うんです。それもわかるんですが、でもこの情報だけだと、いいですかって言われて、いや、多分いいんじゃないでしょうかみたいな感じの答えになってしまうなと思います。私は、あまり規模感がわかっていないというののもあってなんですが、何とも言えない情報だなというのは思っています。ただ、こういう委員会で承認しないといけないという条例があるのもそうなんだろうし、どうしたらいいんだろうなと考えているんですけど、どうでしょうか。
委員長	こういう会で承認をしなければならないという手続き上、必要にされているということがありますので、委員さんのおっしゃるとおり、これだけの情報で、関わっていない人が判断するというのは、難しいところがあるかなと思います。ただ、目的、事業内容のところは、これまで行政の皆さんが、過去の経緯も含めて精査をされて、それで一定の妥当性に基づいて、ご提案がなされているというようなことを感じてはおります。すいません、私も、委員長だから全部把握しているかという、そういうことではないところがあるんですが、一方で、これまでの実績を踏まえて、積算もされている。そして、提案も最小限の情報でしているというようなことは理解をしているので、その点においてお諮りするということしか、私は言えないんですけども。そういうようなことでまた改善に向けて、少し事務局とも相談をさせていただきたいと思います。ということで、今年度の補助金についてご承認いただければ幸いです。よろしくをお願いします。
委員	(異議なし)
委員長	それでは、本日の議事は以上でございます。委員の皆さん、何かございませんか。 それでは議事が終了したということで、事務局にお返ししたいと思います。
事務局	次第4のその他に移ります。次回の推進委員会ですが、1月下旬から2月上旬頃を予定しております。改めてご案内をさせていただきますが、ご予定の方をお願いしたいと思います。 それでは閉会にあたりまして、太田副委員長からごあいさつをいただきたいと思います。

副委員長	皆さん、今日は5月の月末の週の頭の朝一と、本当に非常にスケジュールが難しい中、お集まりいただきましてありがとうございました。心から感謝しています。ただ、それをもってしても、集まって意見交換をするということの重要性を皆さんがご理解いただいているから、ということも再度認識いたしました。 社会教育に関しては、本当にもう常々、一括して意見交換して理解するということは非常に難しいとずっと思い続けていて、皆さんから見てもやはり冒頭そのようなご意見がいくつか出たと思います。今日の委員会も一通りお話を聞かせていただいてやはり、それぞれの課としては、個々でいろいろ企画をして進められているところですが、この社会教育推進委員会という場合は、委員長も言われていますけども縦で、多分、それぞれの行政の課が集まる機会にはなっているのかなというふうに思いました。ですので、我々市民としても、本当に皆さん一市民として来ていただいているので、それぞれ全部丸々理解したうえで、意見交換するというのは非常に難しいことはよく理解しておりますが、やはりちょっとしたいろんな人の意見を聞くことで、自分がしている活動にプラスアルファの何か新しい知識が習得されたうえで、またそういう意見を出されるということを、今日、委員会でも感じました。ぜひ引き続き、皆さん、その専門性を生かしていただきつつ、皆さんが自身に当たらないと思うところは、できれば個々でいろいろと情報収集したり、いろいろ意見交換をしていただきながら深めていただきたいと思います。また次回の委員会に向けて準備をさせていただき、今日至らない部分があったところは、また我々も含めて事務局の方で改善しつつ、よりよいこの豊岡市としても、社会教育の新しい計画が進められるように。これは、計画をすることが目的じゃなくて、市民の方がよりよい豊岡での生活を長く続けていくということが目的になるので、そういうことが市民の方に浸透するような工夫と努力を続けていけるように、私自身も今日改めて、本当に身に染みる思いで委員会を務めさせていただきました。今日も皆さん素晴らしい意見ありがとうございました。 以上をもちまして第3回豊岡市社会教育推進委員会を閉会させていただきます。本日もどうもありがとうございました。
------	---